



「ノミ」の話

みなさんは、「ノミ」という生き物を知っていますか？犬や猫の毛の中にいる小さな生き物で、体長は約2mmほどです。このノミは、ものすごいジャンプ力があり、30cmぐらいいは跳ぶと言われていいます。体長2mmのノミが30cm跳ぶのですから、実に、自分の体の150倍の跳躍力をもっているということになります。もし、私がノミだとすると、なんと255mも跳ぶことができることになります。余裕でオリンピック金メダリストです。

さて、このノミを使ったある実験を紹介しします。すでに知っている人もいるかもしれませんが、聞いて下さい。

【実験】

□ 30cm 跳べるノミを、高さ 10cm のピンの中に入れて、ガラスの板をのせてふたをします。ノミはピンの中で跳び続けています。

しばらくして、ふたを開けると、ノミはどうなると思いますか？

- ① 10cm しか跳べない。
- ② もとのように30cm 跳ぶ。
- ③ ストレスから開放され、なんと50cm 以上跳べるようになる。



正解は①です。ピンの中で10cmしか跳ぶことのできなかったノミは、ピンから出されても10cmしか跳べなくなってしまう。30cm跳んでいたのに、なぜでしょうか・・・。

ノミは、最初はピンから出ようと何度もジャンプするのですが、その度にガラスのふたにぶつかります。そのうち、ノミは加減して、ガラスのふたにぶつからないような高さまでしか跳ばなくなってしまうのだそうです。ピンの中で「10cm」という壁がつくられてしまったため、自分は10cmしか跳べないと思い込んでしまい、本来持っている能力を発揮できなくなってしまったのです。

私たち人間にも同じようなことが言えるかもしれません。失敗を何度も繰り返すと、「そんな無理だ」「できるわけがない」と、自分の限界を決めて、あきらめてしまったことはありませんか。もしかしたら、やる前からあきらめてしまうこともあるかもしれません。

陸上競技でも、同じようなエピソードがあります。「1マイル4分の壁」というエピソードです。1マイル(約1609メートル)という中距離走では、長い間、4分を切ることは、人間には不可能だと考えられていました。実際何十年も、アスリートたちがその限界の壁にぶつかり、4分を切ることは、エヴェレスト登頂や南極点到達よりも難しいと考えられていました。ところが、あるとき(1954年)、ロジャー・バニスターというイギリス出身の陸上競技選手が登場し、1マイルを3分59秒4で走り、見事に4分の壁を破りました。世界の常識を書き換えたのです。

興味深いのは、そのあとです。バニスターが1マイル4分を切ってから、46日後には、3分58秒という新記録が生まれます。その後1年のうちに、23人も選手が1マイル4分の壁を破ったのです。何十年も破ることのできなかった4分の壁は、1度、成功者を見たことで、絶対に破れないという思い込みが、取り払われ、次々と記録が生まれたのです。

最後に、10cmしか跳べなくなってしまうノミを、またもとのように跳ばせることができる方法があるのです。それは、30cm跳んでいる仲間といっしょにしてあげるのです。そうすると、跳べないノミは、跳べるノミの姿を見て、またチャレンジして、跳べるようになるのだそうです。そう思うと、仲間の存在って大事ですね。詫中には、たくさんの仲間がいます。何事にもチャレンジしましょう！